



日日是好日

5月15日（金）

図書館に行き、目についた森下典子著「日日是好日（にちにちこれこうじつ）」を読みました。黒木華主演、樹木希林、多部未華子の共演で映画化されたものを以前DVDで観ていたもので、改めて原作を読んでみることにしました。

「まえがき」の中に、土砂降りの雨の日に「生きている」ことの意味を知るといふ件があります。普段好ましくないと思っていた雨に教えられるというものです。そのことに気付いたとえとして、コップに一滴ずつ水が溜まっていき、あるとき一杯になり、表面張力で盛り上がった表面に一滴が加わることで水があふれるさまを用いていました。大切な何かに気付くとはそういうことなのかなと納得しました。

また「雨を聴く」のところでは、私たちは雨が降ると「天気が悪い」と表現しますが、「悪い天気」とはその人の捉え方によっても書いています。何気ない日常の中にこそ大切なものがあり、題名の「日日是好日」に通じています。

この本の副題は、「『お茶』が教えてくれた15のしあわせ」となっていて、茶道の稽古について書かれていますが、茶道に興味のない人でも十分楽しめる一冊として推薦します。思いがけない「一期一会」の出会いになるとと思いますよ。

